

年頭に当たって

重い社会的責任を痛感

会長 天 野 睦



2000年末に本会は社団法人として厚生省より認可を受けました。厚生省母子保健課の最後の仕事となったようです。昨年社団として新しく出発しましたが、初めは経理面の運用以外に変わったことはありませんでした。事業も従来どおり継

続し、とくに公益性の高い事業をとの自覚のもと、全国会員諸先生方のご協力でスムーズに進められて来ました。

初夏のころから少しずつ変化が現れ、厚生労働省の外郭団体である社会福祉・医療事業団を始め、公益事業への助成金制度を持つ団体などから、本会の事業に対して援助の手が差し伸べられるようになりました。これは本会の将来にとって大変有り難いことであると同時に、重い社会的責任を痛感しております。

ここで現在の各部事業について会員の皆様にご報告しておきたいと思います。会長諮問委員会としてスタートし、総務部を中心に進みつつある小児救急医療問題や、日本医師会の依頼で相澤副会長を中心に始まった禁煙プロジェクトは今後の成果が期待できます。経理部は法人化に伴う種々の変更による戸惑いの時期を乗り越えて、健全運営に万全な態勢を整えました。法制部は定款などの改訂で大変な努力を重ねましたが、今後は細かい詰めや変更が生じたときに対応いたします。広報部は会報、ニュースと

もに各方面から高い評価を得ており、医会の顔として大きな期待が寄せられています。公衆衛生部は現在社会問題化している麻疹を正面から取り上げて、接種率の改善ならびに撲滅に向けた運動を全国に展開中です。社会保険部は医療費値下げの逆風が吹き荒れる中、唯一小児医療だけは別との認識を社会に広め、日本医師会も暖かい理解を示されているようです。学術部はセミナー開催担当府県に協力して、格調高いテーマで生涯研修の実績を積み重ねています。参加者も毎年予想を上回り、会員の期待に応えています。調査部は独自或いは他部との共同作業で各種調査活動をしており、その結果は高く評価されています。医療経営部は略毎年貴重なデータを作成し、多くの文献にも引用されています。子どもの心対策部の研修会は本年で4年目を迎えますが、内容はますます充実することでしょう。さらに2回目を迎える思春期の臨床講習会も楽しみです。国際部は昨年中国、韓国、オーストリアなどで交流を深めました。今後は北米、アジア諸国などへも拡大し、さらに在日外国人の医療問題も検討する予定です。

本会は厚生労働省主導の健やか親子21計画の第3部会幹事として古平常任理事を中心に活躍中であり、さらにモデル事業プレネイタル・ビジットでも日母と共に行政、日本医師会指導の下、成果を挙げつつあり、その活動は各界の注目を集めています。

昨年は21世紀初頭の助走路で、今年から本格的活動の年になります。これまでの歴史を踏まえ、輝かしい未来に向けて一層前進することを期待して止みません。